

ふもとくそ野
筆道資料の探訪

筆屋与三右衛門について

近世三都といわれた江戸京都大坂(阪)には優れた筆師がそれぞれ技術を競い、また老舗を誇る筆問屋筆店が数多くあったことはいうまでもありませんが、城下町広島においても老舗の筆屋がありました。「芸藩通志」によると城下播磨屋町に、先祖糸屋庄兵衛初め紀伊和歌山に住し銀かけ屋なり元和中本府に來り宅地を受け二世までは口糧を給せらる今は筆を製して業とす今与三右衛門まで七代

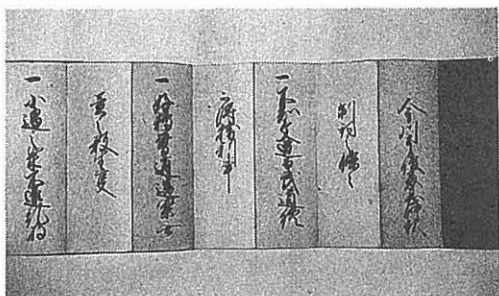
とあります。播磨屋町の筆屋与三右衛門は七代続いた老舗として筆の製造販売にたずさわっていたのです。(熊野町史通史編六九二頁)

この城下播磨屋町筆屋は「通史広島府五」に故家(旧家)として紹介されていますが、代々の家業は筆屋ではありません。「新修広島市史資料編」に、初代糸屋庄兵衛生国しれず紀伊国に於て今中勘右衛門が智養子となり勘右衛門と同居す(中略) 其後元和五年御入国の時御供

なし奉り當地に來り則当町に於て又家宅を下され御合力米も其まゝ下し賜ハリ銀懸屋をつとむ其頃自得院殿(浅野長晟)御成ましましたけるよし申つたふ二代目弥兵衛其まゝ銀懸屋をつとめしか其後返し奉るされとも摺機あるものものよしにて家宅ハ其まゝ下し置る三代目庄兵衛研屋町なるかけ持家の家賃などをもて渡世とせしにそのかみ本宅拝領類火に罹り焼失せしかハかの研屋町の家を売はなちこの拝領家を造作し小商をはしめける(以下略す) 八代目今の与三右衛門なり今、草津屋常蔵か家に借宅し筆結職たり 「知新集」によれば当時広島藩の御城下には白神組、中島組、広瀬組、中通組、新町組、新開の六組がありました。

文政年間(一八一八〜一八二九)の城下町組・新開の職人一覧表に

一、筆結 吉崎利兵衛 胡町
 〃 吉野小平二 猿楽町
 この外町分に二十六人・新開に二人あり、と記録されています。



▲今川了俊の誓書